



国際ロータリー第 2630 地区東濃グループ
多治見西ロータリークラブ



Weekly Report

ウィークリーレポート



PHOTO: 藤田 聖典

会 長 伊藤 正雄
幹 事 森田 宏治
例会日 毎週 木曜日
例会場 多治見市産業文化センター
事務局 多治見市新町 1-23-4F
T E L 0572-25-5100
F A X 0572-25-5101
Email n-rc@joy.ocn.ne.jp
H P http://tajiminishi.jimdo.com

8
2019

2019~2020 年度 第 54 期会長テーマ「愛と夢と展望、さらなる奉仕活動」

第 2564 例会 2019 年 8 月 29 日

会員増強・新クラブ結成推進月間

お祝い例会

本日のプログラム

点鐘

ロータリーソング 手に手つないで
四つのテスト

会長挨拶

出席・スマイル報告

委員会報告

幹事報告

お祝い 親睦委員会

お誕生日

点鐘

☆8月のお祝い☆

お誕生日

28 日	山下智久君	29 日	伊藤正雄君
1 日	佐藤美智子様		(八郎君夫人)
19 日	田中真由美様		(登志男君夫人)
28 日	谷口実智子様		(津富君夫人)

着信書類

- ・可児市商工会議所セミナーの協力をお願い
- ・多治見市社会福祉協議会賛助会費ご協力をお願い

他クラブ移動例会のお知らせ

- ・瑞浪 RC → 8 月 30 日 (金) 点鐘 18 : 45
夜間例会 瑞浪商工会議所 2 階大ホール
- 9 月 2 日 (月) 点鐘 12 : 30
2RC 合同ガバナー公式訪問例会 セラピア土岐

先週の記録

◇出席報告◇

会員数 33名 出席免除者 4名 出席義務者 29名

出席者	欠席者	出席率
21名	9名	72.41%

◇スマイル報告◇ 投函者 21名 金額 32,000円

・ユニークなスローガンの辻ガバナー

ようこそ！

石垣智康

ガバナー公式訪問



懇談会 3階 会頭室

2019-20年度国際ロータリー会長のマローニーさんは Rotary Connects The World（ロータリーは世界をつなぐ）をテーマとしました。これは今年1月にサンディエゴで行われた国際協議会で発表されました。私たち第2630地区のテーマは、ガバナーエレクト帰国報告会で発表した「総天然色」です。なかなかいいテーマだとガバナーは言っています。会長のマローニーさんは、国際協議会の際、前年度の会員減少が過去にない大きなものだったことに触れ、増強や退会防止の大切さを述べられると共に、その方法にも大きく踏み込んで話をされました。よほど衝撃的なことだったのでしょう。私たちの日本はまだまだ元には戻っていませんが、激しい会員減少が止まり始め、増加に転じてきているところでしたので、世界の会員数が激しく減少しているなど思わぬことでした。そこで最初の強調事項。それはロータリー自身の成長だと訴えられました。それをマローニーさんは、「Grow Rotary」と表現しました。彼の表現は「穴の開いたバケツにいくら水を入れても抜けていく

ばかり。それが今のロータリーではないか」と。そしてロータリーを成長させなければならないと言います。ロータリーというバケツをきちんと修復する。あるいは今の時代に合った新しいものに変える必要があります。会員減少は組織としては大変な問題です。彼は続けます。職業分類を強化して会員を増やし、新しいクラブを作らなくてはならない。そして子供たちや若い人たちを大切にしなければいけません。ロータリーのリーダーシップの道をもっと歩きやすくしなければなりません。増強や拡大の前に行うべきことは、ロータリーの成長です。仕事をしながらロータリーが出来なければいけない。家族、仕事、ロータリーのバランスを考えなくてはならないと言っています。Grow Rotary は単に会員を増やそう、組織を大きくしようと言っているのではなく、きちんと続いていくように（持続性）、成長していきましょうと言っています。公共イメージの向上やロータリーの認知度向上もその一つです。先ほども大切にしなければいけないと話した、子供たちや若い人たち。彼らとの結びつき・つながりの大切さです。今年の国際協議会に初めてローターアクトたちが正式に招かれました。世界で60名。日本から3名。私は日本からのローターアクターに質問しました。「どうしてローターアクトに入ったの」。予期せぬ答えでした。その答えは「奉仕がしたかったからです。」と明確でした。私は驚きました。私は彼らの年の頃、「奉仕がしたい」と思ったのでしょうか。私は思いませんでした。皆さんは思われたのでしょうか。その当時の私の感覚は、今話しているローターアクターとは遠く離れているように思っています。しかしこうして言葉を交わし話し合っていくうちに、若い彼らと私たちの思いは、どこかで交わるかもしれません。どんどん話をするのが大切です。青少年プログラムはロータリーにとって避けては通れないものです。今触れたローターアクトの他にもインターアクト、青少年交換等があります。いろいろなハラスメントや最近多く発生する災害時対応など様々な問題も起こっているようです。しかし私たちは諸問題を真正面で受

け止め、諸問題への認識を深め、対応力を十分持って取り組まなければなりません。このような表現があります。船は港に居れば安全です。乗員を乗せて港を出て航海に出れば、静かな凧の日もあるでしょう。しかし荒れ狂う嵐に遭遇することもあります。そのような時にどうすればよいか、常に十分な知識を持って起こり得ることに適切な対応して乗員を守らなければなりません。そして目的の港についた時、その船は多くの人たちの素晴らしい喝采で迎え入れられるでしょう。この船がロータリーです。ちょっと難しい話になりますが、ロータリーの定義といってもよいとされています。ロータリーの中核的価値観というものがあります。奉仕、親睦、多様性、高潔性、リーダーシップの5つです。これが昨年の国際協議会で「ビジョン声明」として出されました。「私たちロータリアンは、世界で、地域社会で、そして自分自身の中で、持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。」という声明です。それを受けて、目的を達成するための戦略計画があります。「より大きなインパクト」、「参加者の基盤拡張」、「参加者の積極的なかわり」、そして「適応力を高める」です。2017-18年度 Make a Difference（変化をもたらす）、2018-19年度 Be The Inspiration（インスピレーションになろう）、そして本年度2019-20年度は「ロータリーは世界をつなぐ」です。「変化とは何？」と考えて時間が経ち、「インスピレーション」と言われて驚きました。そのような中、「あっ、こんなのはどうだろう」と思い付き。そうしたら「そのような思いや考えを持った人が手を取り合っていきましょう」と考えたら、まさに「ロータリーは世界をつなぐ」です。今年度のミッションは、「人びとが手を取り合って行動しよう」です。簡単に言えば、この2017-18年度からのテーマ、これが戦略計画だと考えても良いのではないのでしょうか。では具体的にはどうしましょうか。「人々が手を取り合う」ために、まずクラブや地区のリーダーが率先して積極的に参加する。会員の維持と新しい会員の増強。出来ればローターア

クターや40歳未満の若い会員、女性会員の増強。新しいクラブを作るのもいいでしょう。それとロータリーと関わっている若い人たち、インターアクト、ローターアクトとのロータリークラブ会員間の相互の積極的な参加・協力。地元のJCや商工会議所青年部との交流などもいいですね。

「行動する」とは、例えばポリオ。ポリオ根絶活動でのロータリーが果たしている役割をはじめとしてロータリーが取り組んでいることを伝えましょう。R財団補助金を活用してのプロジェクトを増やすと共にR財団への年次基金、ポリオプラス、恒久基金への寄付の増進。「世界を変える行動人」キャンペーンの促進などでしょうか。これは新しいグローバル広告キャンペーンで、ガイドラインはありますが、クラブや地区でカスタマイズできます。一度ウェブサイトのブランドリソースセンターにアクセスしてみてください。今年4月の規定審議会でメーキャップの話がありました。今まで例会の前後14日間だったメーキャップを、そのロータリー年度内にすればよいということです。いろいろ物議を醸していますが、年度内のメーキャップは最大期間で、今まで通りでよければそれぞれのクラブ細則で決める。例会の前後14日でも30日でも構わないわけで、あくまでクラブが決めれば良い訳です。どんな変化が訪れても中核的価値観やビジョン声明を忘れなければロータリーは変わりません。より皆さんが居心地の良いロータリーにするためにロータリーを成長させるのです。それには家族や若い人たちとのつながりを大切にして会員の基盤を強化しましょう。もう少しのところまで来ているポリオ根絶立ち上がりましょう。R財団が初めて寄付をしたのは1930年国際障害児協会への500ドルです。もっと言えばポリオに感染した子供たちをサポートする協会でした。ロータリーのポリオとの戦いは90年に及ぶと言っても良いでしょう。R財団の資金を活用して良い変化をもたらすための事業を行いましょう。そして寄付もしましょう。すべてロータリーの成長です。先日マローニー夫妻が来日されました。詳しく言うと、八戸、福島、東京・神奈川、

そして名古屋にみえました。お隣の2760地区の名古屋での歓迎晩餐会に私も招かれて出席させていただきました。マローニーさんは7回？、奥様のゲイさんは5回来日されてみえるようです。マローニーさんは国際大会大阪大会の準備委員も務められていたそうです。9月からは行事が沢山あり行き先が限定される。7月8月なら自分たちが行き先を決められるので真っ先に日本に来たと夫妻は言ってみえました。その際こんな話をされました。マローニーさんのホームクラブであるアラバマ州ジーケーターRCが1992年、青少年交換で日本の女子高校生をホストしました。ヨウコさんです。マローニーさんはヨウコさんを預かりました。ヨウコさんは奥様のゲイさんが卒業した高校に通い、ヨウコさんを通じてヨウコさんの家族との家族ぐるみの付き合いが始まりました。留学期間が終わりました。1999年、マローニーさんが来日された時、ヨウコさんに連絡しました。しかしヨウコさんは亡くなっていました。この話をされる時、マローニーさんの目は潤んでいました。そして私が出席させていただいた晩餐会にヨウコさんのお母さんと呼んで欲しいと言われたようです。ヨウコさんの死は辛いことですが、晩餐会での再会はとても素敵なものでした。そして翌日奥様のゲイさんはヨウコさんのお墓参りに行かれたそうです。暖かいマローニーさんが、そしてゲイさんが私たちの年度の代表で良かったと感じました。この出会いは大切にしたいと思っています。さあ、いよいよクラブがロータリーの理念に基づき、自由に主導権を持ってロータリー活動をする時が来たようです。みなさんの家族が、事業所が、そしてクラブが生き活きとロータリーを楽しまれ、この地区に居るロータリアンとロータリークラブの数だけ人間味あふれる素敵な花を咲かせ、総天然色の2630地区を作りましょう。

(ガバナー事務所より原稿を頂きました。)



ホストクラブ
会長挨拶
河人宗寿君

「多治見3RCの“総天然色”」

本日は、辻ガバナーをお迎えしての公式訪問・多治見3RC合同例会にご出席を賜り誠にありがとうございます。さて、多治見RCの“総天然色”は、「三方よしロータリー」～ロータリアンよし、関係者よし、コミュニティーよし～であります。会員の自己成長とともに、会員に関わる人々や地域が少しでも良い方向に向かうことを願っておられます。次に多治見西RCの“総天然色”は、「家族愛 ファミリーなロータリー 愛と夢と展望、さらなる奉仕活動」であります。先輩・自分・後輩、そして他者を確認し、昨今その中で忘れられている家族的な優しさ（愛）を、ロータリアンが模範となり、地域発展そして社会に奉仕できるよう夢と展望を持って努めて行かれるとのことです。そして多治見リバーサイドRCの“総天然色”は、『手をとって共に行く』愛あるロータリー！」であります。皆様とつないだ手が、岐阜東濃グループへ、第2630地区へ、更に大きな力となり世界のロータリーにつながることを確信します。この一年間、多治見3クラブが、どんな“総天然色”カラーをお見せできるのか乞うご期待していただきたいと思えます。



パストガバナー 石垣智康君



ダブル報告 伊藤義弘君



ガバナー卓話



「総天然色」



閉会点鐘
伊藤正雄君